

## 「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会 質疑応答

会場：南部小学校 体育館

日時：令和4年6月2日（木）19時30分から21時00分

参加人数：20名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（質問者）

今日はこのような機会をいただきありがとうございます。今日は意見というよりも要望をお伝えしたいと思います。要望の1つ目です。説明会で出た意見や要望をきめ細やかに市のホームページで情報提供していただきたいと思います。あわせて、あり方検討委員会の答申をだしておりますが、議事録は公表していないので、議事録を公表してほしいと思います。理由です。ほかの自治体の事例をみますと公表しております。スタンダードです。保護者や地域住民が判断する際に他の人の意見などを参考にする必要がありますので、おしみなく情報提供していただきたいと思います。要望の2です。今日は、教育委員会で整備計画は決定したんですよね。決定した後付けの説明会ではな

くて、あくまでも申し上げたこと、みなさんからの意見や要望が整備計画に反映されるものとして扱っていただくように要望申し上げたいと思います。これも無理難題を言っているわけではなく、ほかの自治体でも説明会は整備計画を決める前に保護者やPTA、教職員、地域住民の意見や要望を聞く場として設けているのがスタンダードですのでよろしくお願いします。3番目です。中学校1校に統合するのは望ましくないと考えております。最低2校は必要だと思っております。理由ですが、大規模校にすれば良い教育できるのではないかと整備計画の理由では読めるのですが、決してそんなことではなくて、小規模でも学校教育を立派におこなっているところがたくさんあります。そういった側面を大事にしてほしいと思います。整備計画策定の重要な役割を担ったあり方検討委員会、第8回の論点整理がありますが、1校に賛成したのは委員17名のうち3名、どちらともいえないが6名、残りは賛成に加わっていません。2校案についても賛成は5名のみで、どちらとも言えないは6名で、残りは賛否に加わっていません。大事な会議でも1校にするか2校にするかさえ賛成の意見は少ない状況のなかで、1校案にするには度胸のいることだったのでないかなと思います。飛び越えた決定ではなかったのかなと思っております。最後です。南部小について一言申し上げます。整備計画をみますと統合を前提として検討する、南部小は寒河江小と統合を前提として検討すると書かれております。ですから、統合を前提

としての部分を削除してほしいというのが私の気持ちです。検討を始めたときに統合やむなしと考えるのか、規模は小さくても存続を望むのか議論しないとわからないと思うので、今の時点で統合を前提としてと釘をさしておくのはおかしいのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

（学校教育課長）

ご要望ありがとうございます。それについては、持ち帰って検討させていただきます。

（質問者）

南部小学校は統合してなくなってしまうということで、さきほどの方の話と重複するのですが、それだけ地域に重大なことを、決定だから変えられないというものではない。ニュースで見るといろんな自治体でも進んでおります。だいたいの地域においては、住民に説明会をしたうえで、まとめをして結果をもっていきますという自治体が最近の全国ニュースでもでております。南部小学区において南部小学校が統合してなくなってしまうというのは、重大な問題だと思います。小学校がなくなると限界集落になってしまうのではないかと、いう住民の思いは強くなります。それが私からの質問で、次に意見をいわせていただきたいと思います。今日の話の中ではすごいいいこ

とばかりいっておりましたが、少子化でこうせざるをえないということがあります。少子化の原因はいろいろあると思いますが、主たる原因、国も少子化担当大臣を設けているように、年収の少ない非正規労働者、低収入で子どもを産み育てられないという若者層が大量にでてきております。そういったことで、今日の説明では、そうした現状を認めるばかりか、ますます悪化させ、将来は少子化が進み、限界集落が寒河江市内にどんどんとでてくるのではないかと心配している市民が少なからずいらっしゃるのではないかと思います。こうした国の政策、逆に国の政策の転換ということで、国の方でも正規労働者増をがんばっているようですが、まともな雇用政策に変えていってもらわないと。少子化はひどくなっていくと思います。ともかく、市内に限界集落をうむようなことがないように、国に働きかけていくことが最も大事なことだと思います。また一方で、国の政策ではまずいということで、Uターン、Iターン政策の中で、多くの若者を呼び寄せて、子どもたちも増えて少子化対策で成功している多くの自治体もあります。寒河江市民に希望をもたらしさないような小中学校の統合ではなく、希望をもたらし政策、多くの自治体が進めております若者の雇用を守った中で、子どもたちもにぎやかになっている町もあるのが現実ですので、市民に希望をもてる政策をがんばってほしいと思っている 1 人です。長くなりましたがよろしくお願いします。

(学校教育課長)

ありがとうございました。ロードマップにあります南部小と寒河江小学校の統合については、検討をはじめるということになっておりますので、ご理解いただければと思います。政策については、私どもでお答えするものではないので、要望として受け止めさせていただきます。

(質問者)

中学校になったら統合になるのかな、しょうがないのかなと思っているのですが、10年後、20年後を考えるとここで住むことを決めた者としては、難しいことだなと思います。子どもが減って、歩くのが心配ですが、歩かせて通わせています。地域の人とあいさつをしたりとか、関わりあってほしいなと思っています。これからスクールバスで通うとなってしまうと地域の活性がなくなることは、目に見えてわかることですし、地域に学校がないのは、さびしくなることはしかたのないことなので、そこはしっかり考えて、しっかり話し合ってから先のことを考えていただければなと思います。中心部に行ってしまうのかな。地域に学校があり、通えるところに学校があるのは大事なことだなと思います。南部小学校もまだまだ複式学級までいくところではないと思いますので、工夫をして柔軟な対応をしてほし

いと思います。

（学校教育課長）

ご意見ありがとうございます。学校がなくなると地域の活性化が低下するということについては、大きな枠組みのなかで、まちづくりのなかで地域の活性化を考えておりますので、そちらでお願いしたいと思います。

（質問者）

日頃、新聞や市報をみるようにしておりますが、学校の統廃合については、たまたま回覧板で手にして初めて知りました。市の教育委員会は何を考えているのか、びっくりするやら唖然とするやらで、大変なことが寒河江市で起きているのではないかと思います。私なりに関係資料、答申とか学校施設整備計画を読んだのですが、とても承認のできない内容で、教育委員会のみなさんが誰かのいいなりになっているのではないかとこの疑念がわいてきました。このように大きな問題は、生徒、子どもの教育うんぬんだけではなく、寒河江市の将来に甚大で深刻な問題で、このような重大なことは、本来であればゼロから話し合いを始めるのが大原則だと思うのですが、今回の統合の問題を見てみますと最初から結論ありきといいますか、本来ならば、最初の選択肢に現在の3中学校、9小学校という現状の体制を改

修、建て替えなどを図りながら維持していくという選択肢もあってしかるべきではなかったのかなと思いますが、しかし、寒河江市の場合は、最初から小中学校の統合を前提として、検討委員会を立ち上げ、話し合いをおこなってきたのではないのかなと思いますが、この点について伺いたいと思います。

（学校教育課長）

ありがとうございます。学校の再編については、さきほどの説明にもありましたが、老朽化が一番の問題となっております。そのまま維持するよりも新築して、新しい学校を作る。あり方検討委員会の答申でも50年を目途に改築するという答申を受けておりますので、新しい学校をつくるということで考えております。

（質問者）

はじめに統廃合ありきで議論が始まったのでしょうか。

（教育長）

校舎の老朽化、小学校でも40年過ぎている校舎等もあります。もう一つは、いろんな政策の問題があるのではないかとのご指摘もありましたが、子どもたちの数がどんどん減ってきているという現状もあります。例えば、1つの学年で1クラスしかない。その1クラスも

7人から8人とか12人から13人とかそういう学校もあるわけです。南部小は人数は多くなっておりますが、西部地区の学校ですとかそういった学校もあります。さきほどの説明にもありましたが、2学年で16名以下だと複式学級で、2学年が一緒になって1クラスで1人の先生が教えるということが、これから増えていくという状況であります。そういったことを考えたときに、子どもたちの学び、そこで学んで力をつける、これから生きていくために必要な力をつけるときに、大きな人数でいろんな刺激を受けながら学んだ方が力がつくだろうと、各学年1クラスですーっといくと、人間関係が固定していくという傾向が見られます。クラス替えで新しい仲のいい友達など、いろんな刺激があったりとか、子どもたちにとってもプラス面が大きい。少人数学級、複式学級を否定するわけではありません、複式学級にもいい点があります。ただ、これから考えたときにこのままでいいのかということもあります。老朽化と子どもたちが減っていくということ、もう一つ、さきほどの課題では、児童生徒数の偏りということも話にでましたが、中学校の1校、2校の問題にかかわることかと思いますが、陵東中学校と陵西中学校の学区の子どもたちの人数を見たときに、例えば、そこを統合したときに令和13年度ぐらいには、今の陵東中学校の生徒数よりも少ない生徒数になってしまいます。陵南学区はそれほど変わりない。それぞれの地区の生徒数をみたときに差がどんどん開いていく。子ども数は減り始めると急

激に減る。高齢社会と言われるように若者が少ない状況です。校舎も新しくしなければならない。子どもの数も減っている、偏りもある、そうしたことを総合的に考えたときに、どうだろうかということで、今回の計画があり方検討委員会の答申を受けて、検討されて、だされたということです。中学校については、あり方検討委員会では、1校案、2校案、両方いい点、課題になることもあったので、なかなか決められない。さきほどご指摘ありましたが、両方、賛成する人が過半数をこえることがない状況で、あとは総合的に考えて、市の方で決めてくださいという答申を受けたので、市としてもいろんなことを考えて、計画を策定した状況であります。

(質問者)

ちょっとマイクが聞き取りにいいので今度開催するときは小さな部屋で開催してほしいと思います。少人数教育、複式学級は、これはいいじゃないですか。教育の原点は少人数にあると思っております。明治幕末の吉田松陰の松下村塾、伊藤博文などの人材を輩出して、国を動かして国家を仕上げた。明治時代こそ、これからどういう時代がくるかわからない、そうした時に少人数教育の各地域に藩校とか知の蓄積が日本を作ってきた。少人数こそ日本の伝統で、最初から統廃合ありきの考えは間違いであると思えます。質問ですが、説明のなかで、寒河江市の目指す未来の学校とか、学校規模の適正規模とかででき

ましたが、文科省の手引きをもとに作ったものでしょうか。

（学校教育課長）

文科省の手引きを参考にして作成しました。

（質問者）

文科省の手引きを参考にして作ったということですね。あとでまた質問します。

（質問者）

スクールバスやスクールタクシーなどの運用がわからないのですが、決まった時間にここに集まって出発とか、幼稚園と同じようになるのかなと想像するのですが、その辺議論されているのであれば、議事録などあるとわかるのではないかと思います。南部小学校、このスケジュールで統合だとだいぶ人数いると思うのですが、ある程度人数いるとしたら、バスは逃げ場がないというか、学校は未来的なイメージで検討されていると思うが、バスを待っている間、乗ってから死角になる場所になってしまうので、いじめについて死角のないようにとおっしゃっていましたが、どういう議論になっているのかな。学校がストレスフリーにお金をかけて、結果的に通学などでストレスのかかる場所になってしまうので、質問というよりは、どんな議論で

あったか知りたい。

(学校教育課長)

ご意見ありがとうございます。スクールバス等について、いろいろと検討させていただきたいと思います。

(質問者)

これまで委員会を立ち上げ2年5か月かかって答申が出たということですが、今、令和4年で、令和元年から委員会がはじまっているわけですが、5年毎の見直しということで、南部小の検討を始めるのが令和13年ということになりますと、令和9年の見直しが大きい核になるのではないかと思います。5年後の見直しというのは、令和7年くらいから検討をなされるのであれば、南部小PTAの方に入っていて、南部小のことを考えている方を含めまして、委員会で話し合いの機会を設けていただければと思います。地区に小学校があるおかげで、子どもたちが歩いている姿が明るさを生むと思っております。スクールバスの話がありましたが、子どもの顔を見ながら暮らすのがありがたいと思いますので、答申までの委員会とすれば、5年後の見直しということであれば、そのときあたりからご検討いただければと思います。

(学校教育課長)

計画の見直しとなりますので、あり方検討委員会のようにゼロからはじめるわけではないので、前年度あたりからの検討になると思います。

(質問者)

南部小学校の場合、令和13年度からとなっており、ゼロからではないということでしたが、そのときになってこういった方法もあるのかなといったことも含めて検討いただければと思います。

(学校教育課長)

ありがとうございます。

(質問者)

私の子どもは小学校3年生なので、新校舎になったとき第1回目の生徒になるのかなと話をしております。新しい中学校になって900人かな。どうなるのか不安しかない。500人から急に900人の学校になってどういう気持ちになるのかな。不安というか、親が経験したことない、不安しかない。陵東、陵西中学校を1つにしたりとか、中学校は2つ必要かなと思います。陵南中学校の近辺は住宅団地がほとんどできて子どもの数が増えているし、陵東中、陵西中の近辺は

住宅団地とかはできていないということで、その差が学校の人数になったのかなと思います。陵東中学校あたりも住宅地とかつくれば子どもの数も増えるのかなと思います。陵東中の近辺に住むと環境のいい住宅団地を増やして家族を増やすと子どもの数も増えるのかなと思います。メリットをアピールして、陵東中、陵西中学校あたりの子どもの数も右肩あがりになるのかなと思います。子どもの気持ちの問題、住宅団地を増やせば変わるのではないかなという意見です。

（教育長）

ありがとうございます。ご心配はそうだと思います。私の個人的な経験で、それがすなわち、ああそうかとはならないと思いますが、私は、陵南出身で、寒河江と柴橋が名目統合ということで、名前は陵南中になっていたのですが、実質統合したのは、今の校舎ができてからでした。柴橋は200人くらいの学校でした。陵南中になって900人近い学校になって、中学校2年生になるときに今の陵南中学校に統合しました。統合する前は柴橋の方が少ないです。不安でしたが、大きい学校になって、友達ができるだろうかとか、柴橋も人数少ないので、不安もいっぱいあったのですが、一緒になってみると、新しい友達がいっぱいできたりとか、刺激もあって不安はなくなっていったかなと思います。私が今、こういう立場で説明しているからということではなく、統合しない方がよかったという思いはもったことはな

いですね。ただ、統合していくときにいろいろなお子さんがいらっしやいますので、全員がすぐに統合してよかったということではないと思います。人数が多くなって不安だとか、友達に話しかけづらいという子もいると思います。そうした生徒もいるということを前提に、教員がしっかり見ていくということをやっていきたいと思います。

（学校教育課長）

陵東中の付近に住宅団地については、ご意見として承らせていただきます。

（質問者）

さきほどの質問で国政レベルの話をしているわけではなく、自治体のなかでは、今の団地の話ではないですが、若者の呼び寄せ、子育てできる所得確保したなかで、少子化が解決されている自治体があるわけで、そういったことを教育委員会のマニュアルうんぬんではなく、きちっとやっていただきたいと思います。地元から学校がなくなるということは極めて大きな問題ですので、マニュアルにとらわれず、地区に希望がもてるプランづくりをお願いしたいと思います。ただ、学校をなくすということではないと思います。ぜひ、よろしくお願い致します。

（学校教育課長）

ありがとうございます。ご要望として承ります。

（質問者）

さきほどの質問の続きになります。文科省の手引きに従って進めてきたとおっしゃいました。手引きの中にはこうも書いてあります。学校規模の適正化や適性配置の具体的な検討については、行政が一方的に進める性格のものではないことは言うまでもありません。地域住民の十分な理解と協力を得るなど地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれる。こんな1節もあります。本手引の内容を機械的に適用することは適当ではなく、あくまでも各市町村における主体的な検討の参考資料として利用することが望まれますとあります。ご存知でしょうか。ご存知だと思いますが、それなのに、教育委員会は参考資料としてではなく、手引きの都合のいいところだけを聖典的に扱っている。これは文科省の本意と異なるのではないかと思います。ずるいと思ったのは、あり方検討委員会のなかで資料が添付されておりますが、資料4、これは、文科省の手引きを要約したものでとありますが、前半部分はいいとして、最後の部分がすっぱりぬけている。この最後のところに何が書いてあるかといいますと、さきほど読み上げた一説、学校規模の適正化や適性配置の具体的な検討については、行政が一方的に進める性格のもの

ではないことは言うまでもありません。地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます。機械的に適用することは適当ではなく、あくまでも各市町村における主体的な議論の参考資料として利用することが望まれます。ということが、文科省の手引きには書いてあります。ところが、教育委員会の資料では、この部分がすべて省略されている。自分たちの都合の悪いことは隠して大いに進める。とんでもないと思います。寒河江市の進め方は文科省の手引きを機械的に適用しているとしか思えませんし、行政が独善的に一方的に進めているというのが、寒河江市のやり方である。とても地域住民の十分な理解をえて進めているとは思えません。なぜ、資料4の最後の部分を省略したのか説明をお願いします。

（教育長）

この資料については、あり方検討委員会の方には、要約した資料を渡したのではなくて、今、読みあげられた部分も含めてあり方検討委員会の方には読んでいただいて、検討したということです。要約の資料として全部をつけなかったのはご指摘のとおりです。検討していただくときには、そこも読んでいただいて、機械的に適用するものではないということも踏まえて検討していただきました。検討していただいた答申を受けて、寒河江市でもいろんな状況、今後のこととかを

考えて、今日説明した計画を作ったということです。単純に機械的に書いてあるからこうしようということだけでやったわけではありません。

（質問者）

インターネットの資料では、なぜ削除したのですか。そんなに長い内容ではないと思うがなぜ削除したのですか。私には、教育委員会の都合の悪いことは省略するというありかたが見え透いてなりません。

（質問者）

今の意見は知っておりました。それは、今日はやめようと思っていたのですが、今、意見がありましたので同じことを申し上げます。検討委員会の中では全員で読んで検討されたと推察されます。そこは信用します。市民に対する資料の開示の中で、小規模校を残す場合には、こういう場合がありますよ、いいところもあります。小規模校としてやっていきますよということが第4章としてありますが、要約のところから抜けている。故意に抜いたのではないかと思われるかもしれない部分がある。要約するのであれば、小規模校を残す場合も統合する場合もメリットもデメリットも書いてあるわけで、みなさんに開示して、考えていくのが本当の姿ではないのかなと思います。

（教育長）

ご指摘のとおりだと思います。ページ数も少し多くなるということもありますが、資料として載せるべきだと思います。ただ、意図的に抜いたわけではないということは付け加えさせていただきたいと思いますが、ご指摘はそのとおりだと思います。

（質問者）

冒頭に申し上げたとおり、学校統合の問題については回覧板で初めて知ったということですが、あり方検討委員会は令和元年からスタートしているということですが、その都度情報公開はやっていたのでしょうか。

（教育長）

あり方検討委員会を作るときに、こうした検討委員会をつくりますので、委員になってくださる方はいませんかと、公募をしました。検討内容については、例えば、今日検討しましたというような公開はなかったと思いますが、途中でマスコミ等も取材してくださってありましたので、今こういった検討が行われているということは、新聞等でも報道していただいたという状況かと思います。

（質問者）

見逃しているのかもしれませんが、市報には学校統合について文字

を見たことはありません。本当なら特集を3回か4回くらいして、みんなの意見を募ってやるのが正しい行政のやり方ではないかと思えます。今の市報はお知らせばかりでありあまり期待できない内容ですが、教育委員会の大切な問題は広報に働きかけて、特集を組んで、こういうやり方でやっていくんだと、丁寧な説明が必要ではないかなと思います。なぜ市報にぜんぜん出さないか不思議ではありません。隠しながらやっているとしたとらえられないような部分があります。

(質問者)

私はあり方検討委員会の委員としてお世話になりました。当時の教育長さん、課長さんが違うので見えない部分があると思いますので、事実の部分だけご説明させていただきたいと思えます。さきほど統合ありきということで進んだのではないかとのお話がありましたが、第1回委員会のときに、あり方検討委員会のご説明をしますということからスタートしました。教育長から言われたのは、教育委員会ではこうしてほしい、ああしてほしい、こういう方向で進めてほしいということは一切申し上げません。そういう言い方をしてしまうと、委員会としての方向性がそちら側にぶれると悪いのでご自由に何でもお話してください。ということで委員会がスタートしております。資料が欲しい場合には要望いたしますと次にそういう資料がでてくるという中で話をさせていただいた経緯がございます。地域の方、陵

西学区の方、小さい学校の方もいらっしやいまして、最初は雰囲気  
ピリピリしたものでした。やはり吸収合併、統合となっていく中で、  
小さい学校の皆さまは、吸収合併は嫌だというところからスタート  
しました。会を重ねるごとに、地域の方の感情は大切なんですけど、  
地域の方の感情を考えると学校統合はできないのではないかという  
話にいつているんです。学校は減らさない方がいいんです。ただ、子  
どもたちの将来的なこと、子どもたちが少なくなっていくなかで、教  
育をどうしていくのかを考えたときに、統合は必要なんだよねとい  
うみなさんの意識になっていきまして、では、どういう風に統合して  
いくんだという話になってきたわけです。小学校は3校案から8校  
案まででました。中学校は、1校案、2校案で出ているわけですが、  
あり方検討委員会では最初、中学校は2校案というのが9割の方で  
した。ただ、なぜそれが最終的な結論で、賛成3、反対5、どちらと  
も言えないという方がでてきたのかということ、どちらもメリット、デ  
メリットがあるよねという話になったんですね。どちらとも言えな  
いという方がおっしゃったのは、どちらかに賛成だっていうのは、つ  
らい決断だと。1つの案で答申を出していただきたいという方向性  
だったのですが、これは1つの案にしぼりきれないということで、1  
校案と2校案の併記、その決定については、寒河江市教育委員会にお  
願いするしかないということで昨年の11月に解散なったという経  
緯がございます。事実だけですので、1校案がいいとか2校案がいい

とかは私の口からは言えない部分がありますが、流れとしては、地域の皆さま方のご意見もごもっともですし、あり方検討委員会でも議論になったところですよ。広報については、9割方、山形新聞の記者さんがきておりました、4、5回くらい出たのかなと思います。それから、市民のみなさまのご意見としましては、当時の幼稚園児、小学校児童、中学校生徒の保護者の全家庭にアンケートをとりまして、保護者の意見を聞きたいと全生徒の保護者の方にアンケートを渡して集約したものをベースとして話をした。そんな経緯をご承知いただきたいなと思います。

（質問者）

最後の質問ですが、あんな数のアンケートで説得性はあるのかなと思います。説得性はないのかなと思います。中学校の統合問題ですが、あり方検討委員会では、統合を2校にするかどうかは結論を得られなかったと記憶しております。それで、整備計画ではいきなり3校を1校に統合することになったと。2、3行での説明で、あまりにも拙速すぎるのではないかと。今年度から事業が始まっているんですね。疑問に思います。中学校の統合1校にすることについては、白紙に戻してもらいたい。

（学校教育課長）

ありがとうございます。ご意見として承りたいと思います。